

2022年度
建設部会 例会・講演会

2022年6月18日

日本技術士会中国本部 建設部会



次第

第1部 建設部会例会（13:00～13:30）

1. 開会挨拶（部会長）
2. 2021年度活動報告
3. 2022年度の活動計画
4. その他〔技術士CPD活動実績の管理及び
活用制度の開始〕

第2部 講演会（13:35～17:00）



2. 建設部会 2021年度 活動報告

- 2.1 建設部会の活動目的とテーマ
- 2.2 例会・講演会(2021. 6. 19)
- 2.3 第2回講演会(2021.11.20)
- 2.4 第3回講演会(2022. 2. 19)
- 2.5 現場見学会 (2021.11.29)
- 2.6 統括本部主催講演会のWeb中継
- 2.7 その他
 - ・統括本部との意見交換
 - ・幹事会の活性化検討

2022年度 建設部会の体制

役 職	氏 名
部 会 長	浅間 康史
副部会長	川端 誠
副部会長	楠橋 康広
副部会長	溝山 勇
幹 事	22名

	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	計
会員数	39	45	66	200	48	398
登録者数	169	281	565	1,278	223	2,516
組織率(%)	23	16	12	16	22	16

2.1 建設部会の活動目的とテーマ

*** 建設部会 運営細目より***

【活動目的】

建設部会は、安全で元気な地域づくりと技術士の活躍の場を拡げることが目的として活動する。

【活動テーマ】

- ①技術士の地位向上
- ②土木技術の伝承と教育
- ③国土強靱化と防災
- ④インフラ設備等の品質確保・向上方策
- ⑤地域貢献・地域創生

上記の活動目的・活動テーマに沿って、部会内に幹事会を置き、事業計画を立案し、実施しています。

2.2 建設部例会・講演会

日時 2021年6月19日(土)
13:30~17:05

方法 オンライン方式

参加者 例会 : 65名
(会場:17名、PC:48名)

講演会: 144名
(会場:17名、PC:127名)
(鳥取・倉吉・山口・島根)

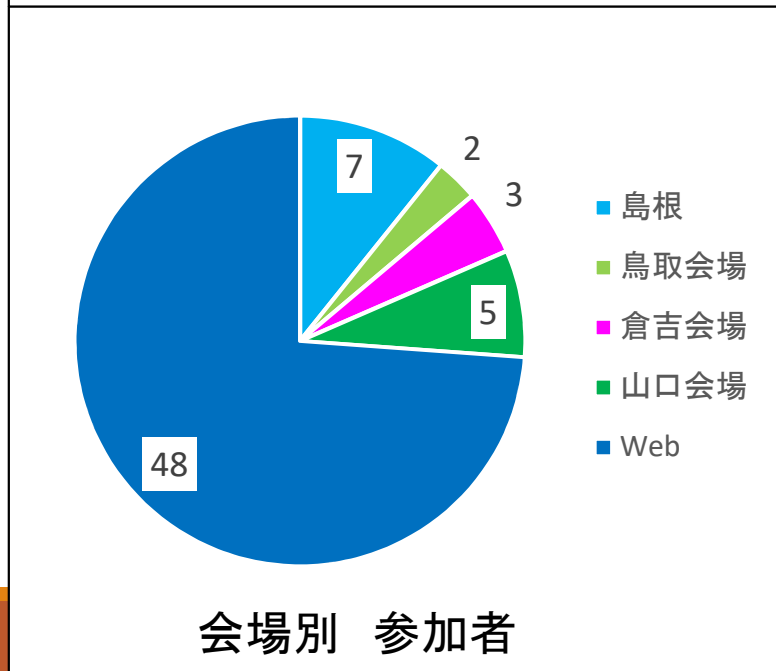
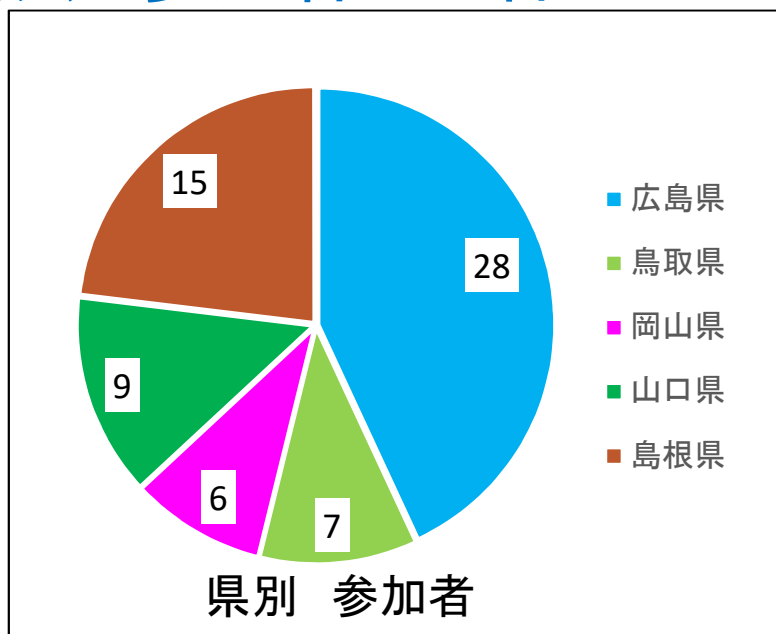
【第1部】 例会

- ・2020年度事業報告
- ・2021年度事業計画 を報告

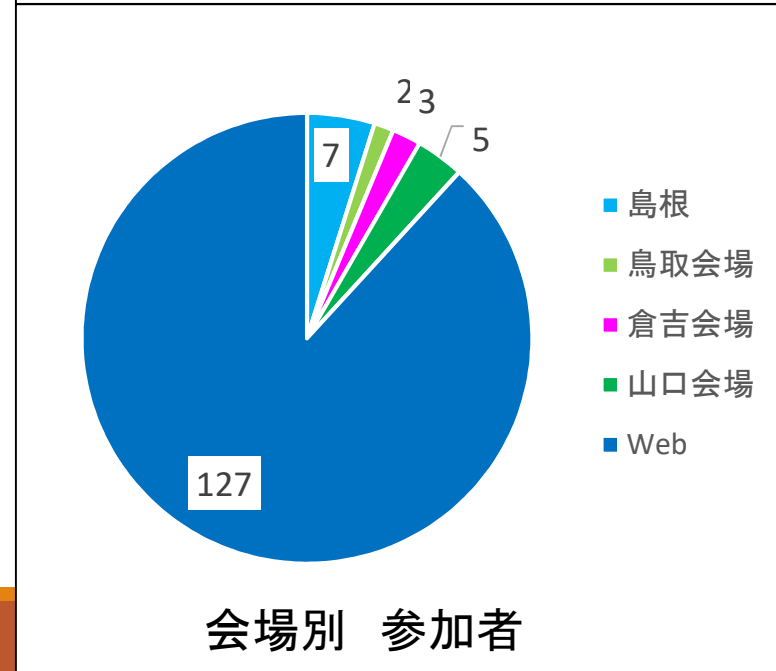
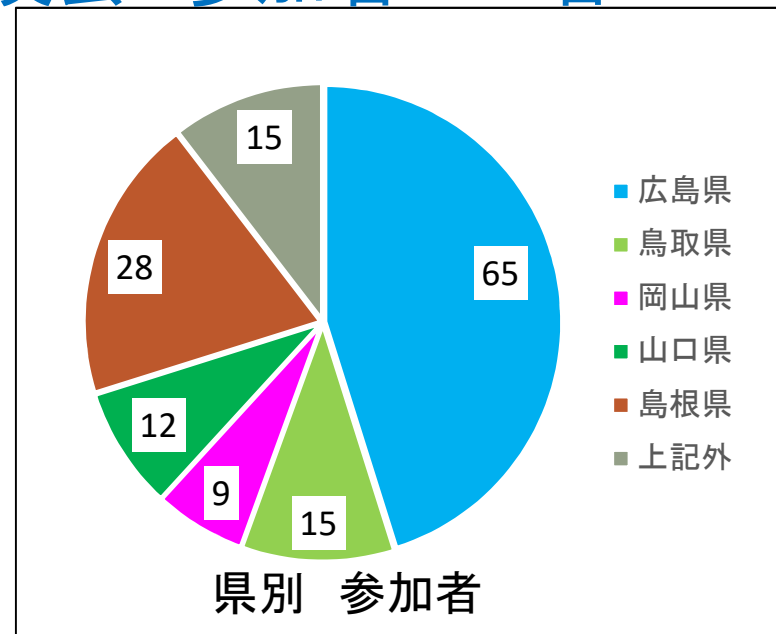


中国本部 会場

例会 参加者 65名



講演会 参加者 144名



【第2部】 講演会

【講 演】

演題1「中国地方整備局のi-Constructionの取組」

講師 樋野義周氏(中国地方整備局企画部工事品質調整官)

演題2「BIM/CIMでできること、できないこと」

講師 亀田雄二氏(復建調査設計(株)DX推進室)

演題3「i-Constructionの実践」

講師 高橋広幸氏(カナツ技建工業(株)特別顧問)

【要 旨】

講演①では、建設分野の生産性向上と働き方改革を実現するために、中国地方のi-Constructionの課題と対応について紹介された。

講演②と③では、設計と工事の立場から、3次元モデルの長所・短所、実地に適用するにあたっての留意点、情報発信等での活用事例、さらには、人材育成の実践など多角的な視点から、有意義な話題紹介があり、参加者からも好評であった。

2.3 新たなCPD制度説明会・第2回建設部会講演会 (2021.11.20)

事業委員会/中国本部建設部会 主催

【講演】

- 演題1 「新たなCPDの実績の管理及び活用の仕組みについて」
中川裕康氏(日本技術士会 技術士制度検討委員長)
- 講演2 「持続可能な国土づくりと社会資本整備について」
美濃部雄人氏(国土交通省中国地方整備局副局長)
- 講演3 「平成26年8月の八木・緑井地区における復興事業について
(雨水渠築造工事の紹介)」
油野裕和氏(広島市下水道局局長)

【聴講者数】	158名
広島会場	29名
島根会場	6名
Web個人視聴	123名



2.4 第3回 建設部会講演会(2022. 2.19)

【目的】 建設産業のDX 推進の中核的課題とも言えるAI について、建設産業への適応性と課題を探り参加者の技術向上に資する

【講演内容】

演題1 「インフラメンテナンスにおけるAI 活用の展望」

全 邦釘氏(東京大学大学院工学系研究科・特任准教授)

講演2 「インフラマネジメント基盤の構築プロジェクト」

下隠俊作氏(広島県土木建築局建設DX 担当課長)

講演3 「準天頂衛星システム(みちびき)を活用した

機械除雪支援システム開発」

菅 雄三氏(広島工業大学環境学部地球環境学科教授)

【聴講者】107 名(アンケート回答87名)

中国地方:45 名 その他:42 名

建設部門:56 名 その他:31 名

【評価等】

- ・聴講者は、中国地方内と外でほぼ同数(Web 講演の有効性)
- ・聴講者の多くがDX 推進に伴うAI 活用に高い関心を示し、アンケートで高評価



2.5 現場見学会(2021.11.29)

・新型コロナ感染対策(バス内換気・離隔距離確保等)を徹底

【見学先及び概要】

(1)河川砂防事業 広島西部山系砂防事務所

H30・7豪雨災害 広島市東区馬木 大谷川直轄砂防事業

砂防ダムの建設現場におけるICT土工等の取り組みについて
請負者から実機を操作したマシンコントロールとマシンガイダンス
施工の説明を受けた。

(2)直轄国道改築事業 広島国道事務所

東広島・安芸バイパス 海田地区、広島安芸区上瀬野地区

R4年度供用開始を目指し鋭意工事中の橋梁トンネル工事等

①海田高架橋第5床板工事(床板工事におけるMR(ミックスリア
リティ)を用いたBIM/CIM活用工事。床板配筋の確認等体験

②上瀬野地区第7改良工事(道路改良切土、盛土工事
にICT土工を採用

③久井原トンネル工事(876m)(産業廃棄物で埋められ
た瀬野川公園直下におけるNATM工法施工現場)



2.6 統括本部主催講演会のWeb中継

コロナ感染状況下で、会場内参加数を限定しながらWeb中継を3回開催
(コロナ感染状況を踏まえ一部中止)

1. 11月17日 (案内書を中国本部HPに掲示)
演題 環境木化都市の実現に向けて W350計画
中嶋 一郎 氏(住友林業(株) 筑波研究所長)
2. 12月9日 (広島会場)
演題 中国の土木事情(インフラ整備と研究環境)から学べること
上田 多門 氏(土木学会次期会長 北海道大学名誉教授)
3. 1月19日(鳥取会場)
演題 地震による地盤・斜面災害と防災
小長井一男 氏(東京大学 名誉教授)

2.7 その他

(1) 統括本部との意見交換(参加者:浅間部会長)

- ・主催 : 日本技術士会統括本部建設部会(11月26日)
- ・会場 : 日本教育会館およびWeb配信
- ・内容 : 建設部会幹事会と各地域本部との
今後の連携等のあり方(意見交換)
 - ・会長挨拶、運営方針、活動報告
 - ・地域本部活動報告及び質疑応答・意見交換
＜北海道、東北、北陸、中部、近畿、中国、四国、九州＞
 - ・技術士制度検討委員会・技術士資格活用委員会の報告

(2) 幹事会の活性化

質の高いCPD事業提供に向け、体制や部会活動のあり方について検討

- ・事業毎に担当者を募集、担当者間の連携強化
- ・幹事プロフィールの作成・共有(作成中)
- ・幹事会の毎月定例開催(2021年12月以降、議事録はHP公開)
- ・会員アンケートの実施(2022年度計画)

3. 建設部会 2022年度 活動計画

3.1 Web講演会 事業計画

【目的】

急速なりモートワークが進展している現代において、より柔軟な発想により技術士会活動の活性化が求められている。

Web講演会は会員の聴講機会拡大はもとより、会員相互の情報交換や発信ツールとして活用していく。

【活動内容】

①中国本部主催Web講演会の企画・開催(11月目途)

中国地区・全国で活躍する技術者、学識者、経済人、文化人等から近年の社会情勢に関する話題提供を目的に講演会を開催する。

②Web中継講演会の開催

統括本部主催するWeb講演会の中継を行う。

(4月、5月:実施済、7月:準備中)

3.2 その他

○現地見学会

- ・中国地方のコロナ感染の収束状況等を踏まえ開催可否・内容検討

○統括本部・地域本部、県支部等との連携

- ・Webオンライン機能等を活用し連携を図る。

○建設部会活動の活性化に向けた 会員アンケート★ご協力をお願い★

会員ニーズを基に事業運営の内容見直しや、より活性化を図る。

(課題認識)

会員ニーズに沿った事業運営を目指してはいるが、ニーズの把握は講演会等参加者へのアンケートに留まっており、広く意見を聞く機会に乏しい。

[アンケート骨子(案)]

- ① 既存事業(講演会、見学会等)に対するニーズの把握
- ② 新規事業(参加型)のニーズの把握

以上

4. その他〔技術士CPD活動実績の管理及び活用制度の開始〕

技術士CPD活動実績の管理及び活用制度の概要(2022年4月26日開始)

1. 技術士CPD活動実績簿への記載申請
技術士会CPD登録システム(Pe-CPDシステム)への登録により個々の「技術士CPD活動実績簿」が作成され、過去5年度まで申請可
2. 登録事項変更届書の提出(法的手続き)
「登録事項変更届書」により過去5年度までのCPD活動実績時間が記載可
3. 技術士CPD活動実績名簿の公表(HP掲載)
 - 基準CPD時間達成者 : 20CPD以上
 - 推奨CPD時間達成者 : 50CPD以上
4. 「技術士(CPD認定)」の認定及び公表(HP掲載、名刺等への標記可)
 - 認定条件(2024.3まで): 過去2年間の各年50CPD以上
 - 認定条件 : ①合計250CPD ②技術者倫理5CPD
(申請前5年間の実績) ③毎年度20CPD以上
5. 技術士CPD活動実績証明書の発行(申請要)